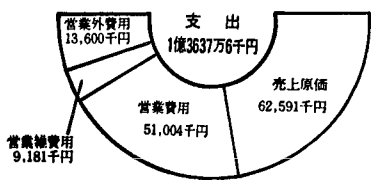
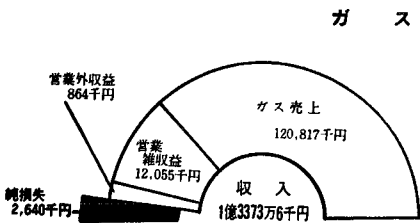


ガス会計は赤字に

ガス事業会計

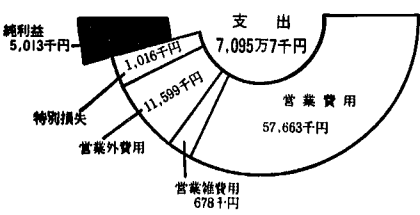
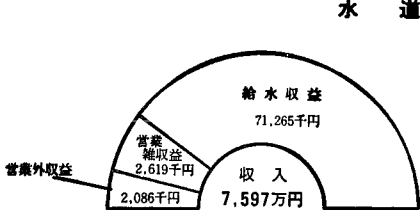
昭和五十四年度のガス事業は、供給戸数二、四九四戸で前年度より三五戸増加となりました。

ガス販売量は、前年度と比較して三・九％増の一六七万〇一七五立方尺となり、一戸一ヶ月当りの使用量は五五・八立方尺で前年度より二・六％の増となりました。



水道事業会計

昭和五十四年度の給水栓数は、前年度より三二栓増の二、七四一栓となりましたが、水道水の需要は伸びず、年間配水量は前年度より三・一％減の百二万五千五百一立方尺となりましたが、漏水防止、量水器取替、配水施設の改善に努めた結果、有収率が高まり単年度五百一十三千円の黒字決算となりました。



国保とわたしたち

医療費の節約

深夜、休日、時間外受診は高い

初診で六〇〇円、再診で五〇〇円

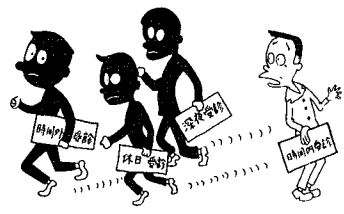
休日受診 初診で一、八〇〇円、再診で一、五〇〇円

深夜受診(夜の十時から翌朝六時まで) 初診、再診とも三、六〇〇円

こんな時間に電話でお医者さんの意見をきいても割増料金をとられます。

こういう受診はお医者さんも迷惑で費用も多くかかります。なるべく、こんな時間は避けましょう。

薬は健康をつくりません 病気になる、薬をのむ、それで健康が回復する、と多くの人は思いがちです。しかし、病気を治すのは人



問の体力——自然治癒力が最も重要なのです。大部分の内科的病気は人間の生まれながらに持っている自然治癒力によって治るものなのです。

薬が病気を治すのだと早合点しないで、お医者さんの養生指示を守ることが一番大切なことです。

ふだんから体力を充実させ少々の病気などはね返す健康なからだをつくっておきましょう。それが病気になっても早く回復するもとも基本的な考え方です。

そのためには、毎日の生活の中で、バランスのとれた栄養、適度の運動と鍛錬、充分な睡眠と休養を心がけることが大切です。

○気をつけよう無駄な医療費 みんなの負担

無料法律相談

相談日 12月19日(金)
午前10時～午後3時
中央公民館
相談員 古川兵衛弁護士
※相談の申込みは、相談日の前日までに役場住民係へ電話で申込みください。

中学生の「税の標語」入選作

新津税務署長賞
税金は幸せを呼ぶ青い鳥
税の義務父さん母さん私も学ぼう

柏 ユリ子
木伏 千雪

本多家文書

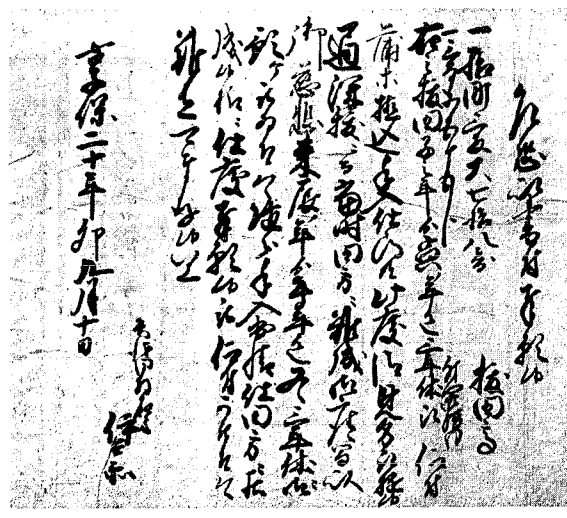
新田の開発

当町内現有文書として、かなり古い、享保二十年(一七三五)の左の文書が、本多家に残っている。

一 拾町三反大七拾八歩

恐れ乍ら書付を以て願ひ奉り候

右之抜田子年より貞ノ年迄三年休ニ仰せ付けられ浦等植込ばされ候通り深抜にて当時田方ニ成り難く御座候間御慈悲



小須戸地内村高の変遷

村名	元禄13年(1700)	天保5年(1834)	明治元年(1868)
水田村	石 勺 171,707	石 勺 222,5620	石 勺 196,0020
水田新田	34,2600		
小向村	236,6840	257,2290	257,2290
横川浜村	297,2330	318,7030	300,3430
小須戸村	384,9330	780,3740	780,3740
鎌倉新田	29,4720	72,9410	72,9410
天ヶ沢新田	63,5000	215,8630	215,8630
新保村	342,0000	581,7810	581,7810
竜玄新田	66,7090	157,3240	157,3240
矢代田村	225,9630	421,4850	421,8850
出典	国立公文所館所蔵・越後国郷帳		蒲原郡旧領田高取調帳

を以て来る辰ノ年より午年迄又々三年休ニ御預け下され候へば随分手入出精住り田方ニ罷り成り候様ニ仕度願ひ奉り候仰せ付けられ下さる可く候へば有り難く存じ奉る可く以上

矢代田村名主 伊兵衛
享保二十年卯九月十日

要旨は、拾町三反三一八歩(少は二四〇歩)の抜田と、三反二九五歩の開抜田の年貢の三年間の免除を藩に願った文書の写しである。

抜はぬが。抜田(ぬきだ)は泥深く正常の田になつていない田を意味する。農民がそ

の地へ蒲等を植込んで根をはらせ、泥湿地よりの脱出をはかっている辛苦の営みを示す文書である。

新発田藩は当初より新田開発による重農主義政策をとり新田を開発したものは藩から開発免状を渡しその時点より三年間の年貢を免除した。これを繰下年季といひ、その後検地され、状況の悪いものはさらに三年間の免除をした。拾町三反とはかなりの広大な田であるが、まさにこの時点で矢代田農民が泥湿地の開田を行い、さらに三反の新田と合わせ、両度年貢の免除を小須戸組矢代田村名主本多伊

兵衛の名で藩に願ひ出た当時の努力・辛酸の状況をまざまざと示す。(矢代田は当時新発田藩、寛政二年幕領に上知になり水原代官支配となり本多家は庄屋となる)

この場所は今のどの地点かまた結果がどうなったかの文書はないが、幕府が各村の右高を集計した「郷帳」から、小須戸地内を抜書してみると上の表になる。

先ず水田村の増減については、「親村水田村田上村地方(ジガタ)之内慶安四年(一六五二)に水田新田が開発され」(以下新発田藩史料「元禄拾二年・小須戸組新村年代表角親村付帳」による)これが天保五年には加わり、明治元年にぬけているからである。小須戸村は元禄以後、新田を加え天保までに倍増。鎌倉新田は「矢代田村を親村として明暦三年(一六五七)に開発」、天ヶ沢新田は「矢代田村を親村として慶安元年(一六四八)に開発」、竜玄新田は「新保村を親村として寛永十七年(一六四〇)に開発」され独立新田村となり、新保村・矢代田村は天保には元禄に比べ、表高で倍増に近く、鎌倉新田・天ヶ沢新田・竜玄新田は倍々増近くなっている。

現在は一望の美田。蒲原の低湿地の開発は大体享保以後

